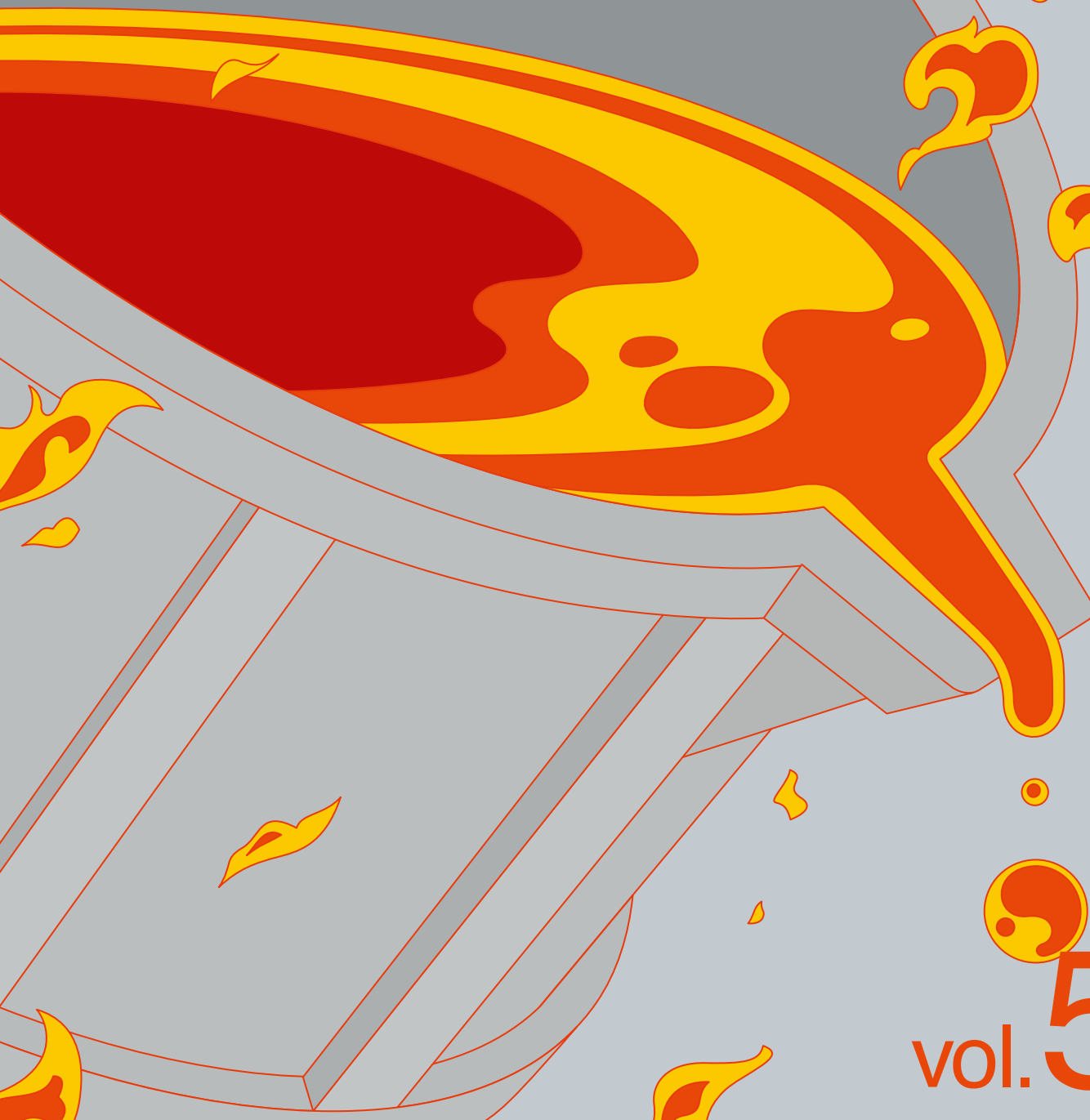


富山のデザイン情報誌

offer

toyamadesign.jp



vol. 51

03 特集

富山のデザインに関するトピックス50

12 とやまのお土産新ブランド「美のこわけ」創出事業

美のこわけ

14 富山県商品開発研究会

ミラノサローネ2023 デザイントレンド報告

15 ITセミナー

最新の3Dスキャンを体験しよう

ゲスト:森 祐介、岩崎 雪乃、岡部 敬吾

16 デザイン講習会

愛される会社をデザインする

ゲスト:石川 俊祐、梶川 貴子、宮田 隆司 モデレーター:岡 雄一郎

18 デザインセミナー

Designers Meetup

~デザイナーとの出会いから商品化まで~

ゲスト:進藤 篤、佐野 秀充、瀧田 秀成

20 富山プロダクツ選定事業

優れた富山ブランドとして今年度15点を選定

22 ナイトフォーラム

とやまで建築を仕事にする

ゲスト:本瀬 あゆみ、齋田 武亨

24 2023(令和5)年度 事業報告

※敬称略

COVER

グラフィックデザイナー

久保田 光明 Mitsuaki Kubota

1994年東京都生まれ。大学進学で高岡市へ移住、卒業後県内のデザイン事務所を2社経験し、2022年独立。印刷物のデザインをはじめ、パッケージ、WEB、動画、企画展など多分野にわたるアートディレクションを担う。TOYAMA ADC 2021 ADC賞受賞。

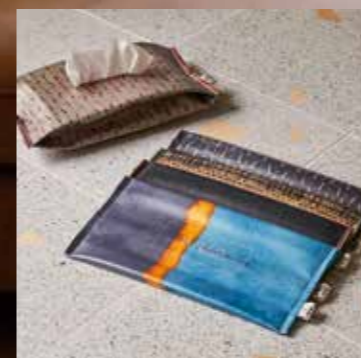


表紙コンセプト/高岡の鋳物工場で鋳造作業を見せていただいたことがある。数メートル先にも伝わる炎の熱、飛び散る火の粉、砂型が焼ける匂い、それらは自分がものづくりと向き合う上での大切な原体験となっている。そんなことを思い出しながら、溶けた金属を流し込むために使用する「取鍋(とりべ)」という道具を描いた。

Toyama Design TOPICS50

富山のデザインに関するトピックス50

価値観が多様化する社会の中で、地域や企業、商品の魅力を伝える手段としてデザインは重要な役割を果たしています。デザインをうまく活用することで、富山県を盛り上げた魅力的な商品やイベント、プロジェクトなど、この1年間で話題となった50の取り組みを、近年さまざまな分野で重要なキーワードとなっている「SUSTAINABLE」、新商品「PRODUCT・GRAPHIC」、各種賞を受賞した「AWARD」、催事などの「EVENT」、新たに開設された店舗や施設の「LAUNCH」の5つのジャンルで紹介します。



リバーリゾート雅楽倶がグリーン・リノベーション

■ リバーリゾート雅楽倶

神通峡の畔にある客室23部屋のスモールラグジュアリーホテル「リバーリゾート雅楽倶」が、環境に配慮したグリーン・リノベーションを行いました。富山を拠点に活動する若手クリエイター達が、地域の伝統や技術、富山の地に根差した素材、環境配慮型の新素材などを活用し、現代の環境に配慮した新たな価値観で空間を演出しました。また創業以来使用してきた国内外から買い付けたこだわりの家具を地元の職人の手で新たに修理・修繕し、統一感をもたせました。

01

自然界の調和のとれた法則を取り入れた
花卉の器シリーズ

■ 富山ガラス工房

富山のガラス作家が一つのテーマに挑んで作る「富山アイコンック」に、花卉をテーマにしたシリーズ作品「輪花」が加わりました。「輪花」とは、器や盆などの口縁部に規則的な切込みを入れ花形にかたどった形状の名称のこと。富山ガラス工房の作家十人が、自然の形態に存在する規則的な数列に従って制作。クレマチスやコスモス、アネモネなどの花の形のガラス、ボウル、カップとして商品化しました。



02

佐野政製作所とデザイナー進藤篤による
「無用の用」を形にしたプロダクトブランド

■ 進藤篤×佐野政製作所

「U、(ユウ)」は、富山県高岡市の仏具メーカー(有)佐野政製作所と、デザイナー進藤篤氏によるプロダクトブランド。「ほんのささいな瞬間が日常を豊かにしてくれる」、そんなプロダクトづくりを目指して2022年12月にローンチしました。その第一弾となるアイテムが、仏具製造の精巧な技術を駆使して製作された「ロリポップ」を収納するキャンディーケース「candy」。



03



G7 EDUCATION MINISTERS' MEETING IN TOYAMA AND KANAZAWA
富山+金沢 教育大臣会合

04

富大生が考案
富山・石川でポスターなどに活用

■ G7教育相会合

5月12日～15日の期間、富山・石川両県で開催されたG7富山・金沢教育大臣会合。その公式ロゴマークが富山大学の学生によって制作されました。ロゴマークは、両県の彩り豊かな魅力が虹色で表現。中心部には富山の「立山」「ますのすし」「おわら風の盆」、石川の「兼六園」「加賀野菜」「九谷焼」などの名所や名産をかたどったアイコンが配置されています。マークは両県でポスターなどに活用され国際会議の盛り上げに一役を担いました。



05

ズワイガニ干物「かにぼし」
パッケージを一新

■ IMATO

「かにぼし」は、射水市の干物会社(株)IMATO(いと)が開発したズワイガニの干物。2020年から販売しているかにぼしシリーズの一つである「越の干蟹」は、「明日のとやまブランド」にも選定され、IMATOは干す技術で特許を取得しています。常温保存可能で、そのまま食べたり食材として炊き込みご飯などにも利用でき、お土産などとして好評を博してきました。一新されたパッケージは、家紋をイメージしたカニのマークを採用。



06

工作機械用銘板の富山プレート
デザインプロジェクトから生まれた新ブランド

■ 富山プレート×大寺桂

工作機械用銘板、薄板加工や、金属・樹脂への刻印、UVインクジェット印刷の(株)富山プレート(上市町)とアクセサリ作家・大寺桂氏のコラボレーションによるアクセサリブランド「to」が誕生しました。精密なレーザーカットで切り出されたサージカルステンレス版が平面と立体の境界を行き来し、身につけることで新しい表情を見せます。ブランド監修には高岡市のクリエイティブスタジオROLEが入り、2月の合同展示会「エクストラレビュー」で発表しました。

美容ブランド「ReFa(リファ)」が
蝶紐を用いたブラシを発売

■ ReFa HEART TOYAMA

(株)MTG(本社:名古屋市)の美容ブランド「ReFa(リファ)」は、2023年12月にハート形のヘアブラシ「ReFa HEART TOYAMA(リファハート富山)」を発売しました。表面の装飾には、高岡市の伝統工芸「高岡漆器」とその技法の一つ「青貝塗」を採用。京都の漆塗り技術を施したReFa HEART KYOTOに続く第二弾商品として、同社オンラインショップ、全国の百貨店、免税店などで販売していきます。販売価格は36,300円(税込)。



08

09 TOYAMA ADC 2023
羽田純氏がグランプリ受賞

■ TOYAMA ADC

「TOYAMA ADC 2023」の審査会で、羽田純氏の「工芸都市高岡2022 クラフトコンペティション」がグランプリに選ばれました。同賞は、富山県内在住のクリエイターがその1年間で制作したポスター・チラシ・CM・ウェブ・新聞広告などのデザイン作品から選ばれます。受賞作のビジュアルには、トレーシングペーパーを部分的に浮かせて手作業で作ったグラデーションが用いられました。審査にあたったのは、佐藤卓氏、平野篤史氏、加瀬透氏の3名。受賞作品は富山デザインフェアで展示されました。



「富山もよう」を使ったプロモーション
北日本新聞広告賞グランプリを受賞

■ 高岡信用金庫

第46回北日本新聞広告賞の審査会で、高岡信用金庫の「富山もよう」DOZOUを使った創立100周年記念プロモーション」がグランプリに選ばれました。同金庫のグランプリ受賞は初めて。同金庫は創立百周年を記念し「富山もよう」の事業に協賛。高岡御車山祭と山町筋をモチーフにしたもよう「DOZOU」を使った広告をラッピング紙面に掲載したほかマグカップやノートなどのグッズを製作。ノートは高岡市内の小学生らに配布しました。

10

11 リッチェルのハウスウェア用品
2023年度グッドデザイン賞を受賞

■ リッチェル

(株)リッチェル(富山市)の浴室の壁に取り付けられる「下から出るマグネットディスプレイ」が、2023年度グッドデザイン賞を受賞しました。浴室の壁面にマグネットで取り付け、プッシュするとシャンプーやボディソープなどが下から出る構造。ポンプタイプのものは「置くくと床や棚がぬるぬるする」、「詰め替えしづらい」といったユーザーの困りごとから生まれました。清掃や詰め替えしやすいデザイン性や、壁面にマグネットを使用できるユニットバスの普及を機会ととらえた発想が評価されました。



12

世界的に権威あるデザイン賞
iFデザインアワード2023を受賞

■ タカタレムノス

(株)タカタレムノスの「RELIEF」(デザイン:福定良佑氏)が、iFデザインアワード2023を受賞しました。「RELIEF」は天然素材である磁器のマットな質感が印象的なミニマルなデザイン。すり鉢状にくぼんだ磁器の盤面に時刻を表示する指標がレリーフのように陰影を落とします。同賞は、ハノーバー(独)を本拠地とする独立デザイン団体iF International Forum Designが毎年優れたデザインを選出し賞を授与するもの。今年度は56の国・地域から11,000件の応募がありました。

13 シーケー金属、配管用継手で
4度目となるグッドデザイン賞受賞

■ シーケー金属

配管機器製造のシーケー金属(株)(高岡市)の配管用継手「Wフランジ」がグッドデザイン賞2023を受賞しました。同製品は、フランジ形状をW型の手錠形状とすることで、業界初の「後付け施工」を可能にしたもの。従来品はあらかじめ管に装着し横持ち搬送しなければならず、ハンドリング面で難がありました。また継手本体にボルト、ナット、パッキンをプリセットし部品の落下や紛失リスクも解消。同社のグッドデザイン賞受賞は、2007年、20年、22年に続き4回目。



14

梁と屋根が一体構造の
カーポートがグッドデザイン賞受賞

■ 三協立山 三協アルミ社

「FII(エフツー)」は、意匠性と機能性を兼ね備えた、アルミフラット屋根のカーポート。梁と屋根の一体構造で、フラットな屋根下空間を実現。屋根の四隅にある接合部の仕上げにこだわり、近づいて見てもノイズのないシャープな外観で、住宅との調和性を高めました。柱の外側まで屋根があるので直射日光や雨の吹き込みを軽減し、乗降時の雨濡れにも配慮。サイドスクリーンもオプションで用意。EV/PHEV充電対応モデルもラインナップされています。

15

SCOP TOYAMAが
グッドデザイン賞のベスト100を受賞

■ SCOP TOYAMA(富山県創業支援センター/創業移住促進住宅)

富山市蓮町にある築50年の旧県職員住宅3棟をリノベーションして誕生した「SCOP TOYAMA」が、グッドデザイン賞のベスト100を受賞しました。事業の発端は、2017年の建築甲子園で全国優勝した富山県立富山工業高校の先生と生徒たちのリノベーションプラン。この構想を基に県と設計者が高校生たちとのワークショップを通して「創業」「移住」支援拠点として再生しました。高校生のビジョンを地域の実現するというデザインプロセスが高く評価されました。



Photo: 鳥村鋼一

YKK™
Little Parts. Big Difference.▶▶▶



16

日本文具大賞(サステナブル部門)を受賞
裁断くずから作った「服の鉛筆」

■ ミヤモリ

「服の鉛筆」は生地の断裁くずから作られた「繊維炭」を芯に使ったサステナブルな鉛筆。学校の体操服などを製造する(株)ミヤモリ(小矢部市)が、製品づくりの際に発生する断裁くずを、地元の炭化装置開発企業と鉛筆製造企業とのコラボレーションで商品化しました。焼却・埋立処分されていた約20トンの断裁くずを資源化することで、廃棄にかかる年間9トン以上のCO₂排出が削減可能。鉛筆は、テカりのない黒度の高いマットな色合い。将来的には直販サイトでの販売を計画しています。

17



植物由来のタンパク質繊維を用いた製品を
ザ・ノース・フェイスなどの4ブランドから販売

■ ゴールドウイン

ゴールドウインは、2015年からベンチャー企業スパイバー(山形県)と協同開発を進めてきた人工タンパク質繊維を用いた衣類の量産化を開始。「ザ・ノース・フェイス」など4ブランドのコレクションとして世界展開を開始しました。人工タンパク質繊維「プリュード・プロテイン繊維」はトウモロコシなどの植物由来の原料を使用した微生物による発酵工程で製造され、絹のような光沢をもつ糸や、綿やウールのような繊維にも加工可能。

18



廃棄物処理プラントが
新たな夜景スポットに

■ アイザック

(株)アイザック(魚津市)は富山市にある同社の廃棄物処理プラントのライトアップを開始。安定稼働のための照度向上、カーボンニュートラルの実現に向けたPRに始めたもので、新たな夜景スポットとして注目を集めています。ライトアップに必要な電力はすべて廃棄物焼却時の熱を利用した発電でまかないます。照明デザインは東京タワーやレインボーブリッジのライトアップを手がけた、世界的な照明デザイナーの石井幹子氏。ライトアップは毎日、日没から午後10時まで行われます。

19



森林資源を活用
精油2商品が完成

■ 白萩地域山村活性化協議会

豊富な森林資源を活用し、行政や町内に拠点がある企業などと連携して上市町の魅力向上を目指す白萩地域山村活性化協議会。同協議会は2021年度の発足以来、3つのプロジェクトに取り組んでおり、その一つ「香り文化」推進プロジェクトが、地域の樹木「サワラ」と「クロマツ」を使ったエッセンシャルオイル2商品を完成。協議会では他にも遊歩道整備や発酵食品のプロジェクトに取り組んでいます。

20



高岡鉄器の事業を継承
「うちがやるしかない」と大谷氏

■ 大谷喜作商店

大谷喜作商店は1952年創業のファブレスメーカー。干支の置物などの鉄铸件や銅器を他社に製造委託し販売する事業を行ってきました。同社は2023年1月、高岡市内で唯一「生型(なまがた)铸造」の技法を使う鉄铸件専門メーカー、岡铸造所の事業を継承。鉄铸件を自社生産できる体制を整えました。高岡鉄器は2013年に県の指定伝統工芸品となりましたが、需要の減少とともに岡铸造所が最後の事業者となっていました。「新たな商品を作り存続の道を探り、高岡鉄器を次の世代に引き渡したい」と大谷氏は語っています。



21

クルマの廃棄材を活用した
アップサイクルプロジェクト

■ トヨタ販売店各社×トヨタファイナンス

ネットトヨタ富山(株)、トヨタモビリティ富山(株)、トヨタカローラ富山(株)は、トヨタファイナンス(株)(名古屋)と協業し、自動車の廃棄材を活用した「アップサイクルプロジェクト」を開始しました。サーマルリサイクルされていた樹脂部品を、アップサイクル事業者と連携し新たな商品に生まれ変わらせようとするもの。その第一弾としてヘッドランプを再利用したサングラス、第二弾として整備士の作業着を再利用したゴルフカートバッグを製作、11月から県内のトヨタ販売店の一部で販売を開始しました。

22



23

アイの栽培から「すくも」づくり、染めまで
藍染めを通じて地域活性化

■ 藍染め屋aiya

藍染め屋aiya(魚津市鹿熊)の代表、南部歩美氏が2020年に立ち上げた地域活性化事業「つなぐプロジェクト」が4年目を迎え、これまで3年間で延べ200人以上の人が苗植えや収穫を手伝うため中山間地を訪れてきました。中山間地で増え続けている耕作放棄地を活用して藍染めの染料となる植物タテアイを栽培し、原料から鹿熊生まれの藍染めを生み出しています。それらの工程を地区内外の方達と連携することで、関係人口の増加にもつなげています。

空き家を空間デザインし
再生するサービスを開始

■ 家's

高岡市で家具のアップサイクル事業や空間プロデュース事業を行っている(株)家's(イエス)が、空き家の再生サービス事業を本格的にスタートしました。リユースやアップサイクルした家具などをふんだんに活用し、アーティストとのコラボレーションも行いながら、デザイン力で空き家を魅力ある空間に改良していきます。空き家の取得を行いながら、当面10棟の再生を目標に事業を展開。近年社会問題化している空き家問題に一石を投じます。

24



25

クリーニング・リペアした家具を
イベントなどにレンタル

■ トン

「トン」は家具・インテリア用品販売の(株)米三による新業態。「捨てるをまわず、くらしをつくる。」をスローガンに「家具の循環(回収・再生・販売)」を中心に様々な資源循環を提案しています。その新しいサービスとしてスタートしたのが、クリーニング・リペアした家具のレンタル。ダイニングチェアやダイニングテーブルなどを、トークセッションやワークショップなどの客席や作業用に活用いただくというもの。レンタル可能な家具の種類、詳細はトンのウェブサイト(<https://toton.style/contact/>)から。



金属と和紙のコラボ作品展「マ輪ル宇宙」 富山市内の書店で開催

■ マ輪ル宇宙

金属製造の(株)シンコー(富山市)が和紙職人の川原隆邦氏(立山町)と「異分野の出会いによる新しい価値の創造」を目指して発足させた「シンコーみらい工芸部」。シンコー社員と川原氏、スペースコミュニケーションディレクター柴草朋美氏らが手がけた作品「マ輪ル宇宙」の展示が、富山市の書店で開催されました。作品は土星をイメージした約3mの大作を中心に和紙と金属からなる100個の作品で構成。作品展示とともにワークショップも行われました。



26

伝統産業に関わるメーカー13社による 斬新なデザインの商品発表会「課題のストア」

■ 高岡市デザイン・工芸センター

高岡市デザイン・工芸センターでは2017年度から多摩美術大学教授・安次富隆氏を監修者に「課題のデザイン」というテーマで新デザインの考案や新分野開拓を目指した研究会を開いてきました。その成果展示会「課題のストア」が2月23日～26日の3日間、高岡市金屋町の博達堂FUTATABIで開催されました。高岡銅器や高岡漆器などを扱う13社14人の手による鋳物、菅笠などの多彩な作品約120点を展示。25日には研究会参加者と安次富氏によるトークイベントも行われました。



27

北陸工芸の祭典「GO FOR KOGEI」 2023年のテーマは 「物質的想像力と物語の縁起—マテリアル, データ, ファンタジー—」

■ GO FOR KOGEI

工芸の魅力を現代の視点から発信する場として2020年より始まった「GO FOR KOGEI」。今年度は富岩運河沿い約5キロにわたる3つのエリアで、26名のアーティストの作品を紹介しました。テーマにある「物質的想像力」は、フランスの科学哲学者ガストン・バシュラール氏が著書「水と夢: 物質的想像力試論」で物質を詩的な視点から論じる際に使われた用語。その概念をベースに、絵の具やキャンバス・土・布・鉄など、さまざまな素材を使用した作品が並びました。

28



榎田酒造店 満寿泉にて展示。葉山有樹「双龍」2023年 Photo:Watanabe Osamu

藍染文化をテーマに 「LIFESTYLE PRODUCT展 vol.2」開催

■ 富山大学芸術文化学部

Meets GEIBUN第21回企画展として「LIFESTYLE PRODUCT展 vol.2」が、三井アウトレットパーク(小矢部)で8月4日～9月18日の会期で開催されました。今回のテーマは「藍染め文化を伝えるライフスタイルプロダクトの開発」。日本人になじみ深い藍染めを用いたプロダクト開発に学生が挑む企画です。「Meets GEIBUN」は三井アウトレットパークとのコラボで富大芸術文化学部が作品展示、デザインワークショップの開催などを行う場。2021年の開設以来、年間を通して様々な活動が行われています。



29

30回目を迎えた富山デザインコンペティション 商品化された42点を一堂に

■ 富山デザインウエーブ

富山県、富山市、高岡市が「富山から世界に発信するデザインムーブメント」をキャッチフレーズにスタートした本県を代表するデザインイベント「富山デザインウエーブ」。その2023デザイン展が御旅屋セリオ(高岡市)で行われました。今年30回目を迎えた富山デザインコンペティションの優秀作品やこれまで商品化された作品を一堂に公開。30年を振り返る年表や、コンペを経て活躍の場を広げるデザイナー4人の紹介も行われました。



30

31 高岡市に100のクラフトマンが 一堂に会するイベント開催

■ 手仕事を堪能するクラフトフェア「ツギノテ」

伝統工芸産地の高岡市で「作り手・売り手・使い手を繋ぎ、ものづくりを次の時代へ継いでいく「新しい場」の創出」をコンセプトにしたイベントが11月3日～4日の2日間の日程で開催され、初年度にも関わらず約3800人が来場しました。開催したのは高岡伝統産業青年会。高岡駅横の立体駐車場を会場に、県内外から約100の職人やクラフト作家が出展。作家による対面販売や技法などを伝える技術展示、ワークショップが行われ、飲食や音楽のDJブースも設けられ、ものづくりファンから家族連れまで幅広い年代の方々を訪れました。



「大竹伸朗展」ポスター

32 2006年ぶりとなる大竹伸朗の大回顧展 富山県美術館で開催

■ 富山県美術館

1980年代のデビュー以来、絵画、版画、素描、彫刻、映像、絵本、音、エッセイ、インスタレーションから巨大な建造物に至るまでおびただしい数の仕事を手がけ、近年ではドクメンタ(2012)とヴェネチア・ビエンナーレ(2013)の二大国際展に参加するなど、現代日本を代表するアーティストとして海外でも評価を得ている大竹伸朗氏(1955-)。その大規模な回顧展が富山県美術館で8月5日から9月15日まで開催。国際展に出展した作品を含む約500点を7つのテーマに基づいて展示されました。



33

錫婚式祝う宿泊プラン 東京ステーションホテルとタイアップ

■ 能作

鋳物メーカーの(株)能作(高岡市)が東京ステーションホテル(東京)とタイアップし「結婚10周年を祝う 錫婚式宿泊プラン」を企画しました。能作は主力商品の錫にちなみ、2019年から本場で錫婚式を始め、22年からは札幌市でも展開。今回で県外展開は第2弾となります。同ホテルで宿泊し、能作の錫100%製テーブルウェアを使った特別ディナーを楽しめるほか、利用者には東京駅丸の内駅舎のドームに飾られた大鷲のレリーフを模した錫100%製箸置きと、ホテルロゴ入りの曲がる器「KAGO」を贈呈。



Premiumクラフトツアー 能作とのコラボで企画

■ 富山県産業高度化センター 富山県総合デザインセンター

(株)能作(高岡市)とのコラボで「ものづくり&デザインに触れるPremiumクラフトツアー」を企画しました。高岡駅をスタートし、富山県総合デザインセンター、能作、モメンタムファクトリー・Oriiをめぐる1日のツアー。デザインセンターでは展示室などを見学、能作では普段は入れない「木型倉庫」やアーカイブルームと昼食。午後からはOriiで伝統の着色技法で銅板コースターを製作しました。



37

富山県内のものづくり企業と デザイン系大学生とのマッチング事業

■ とやまデザイン・トライアル インターンシップ2023

「とやまデザイン・トライアル」は富山県総合デザインセンターが主催する、デザイン人材マッチング&育成事業。県内のものづくり企業とデザイン系大学生の交流を通じ、デザイン人材の確保と育成を目指しています。今年度はより充実した体験となるよう、受入企業を5社に、実施期間を5日間として開催。与えられた課題をもとに、企業担当者や参加者相互の交流を通じてデザインプロセスを経験できる実践的な内容で実施されました。

ものづくり技術や製品を展示 日本海側最大級の国際展示会

■ 富山県ものづくり総合見本市(T-Messe)

「富山県ものづくり総合見本市」は、県などで行う実行委員会が2年に1度開催する日本海側で最大級の国際展示会。7回目となる今回は、国内企業のほか9つの国や地域からあわせて287の企業が出展し、富山産業展示館で10月26日～28日の3日間の会期で開催されました。工作・産業機械や電子・電気、IT、プラスチック、アルミなどの企業ブースのほか、EV、バーチャルテクノロジー、カーボンニュートラルの企画展示コーナーが設けられました。今回は4年ぶりのリアル展示会での開催となりました。

35



36 デザイナー・倉俣史朗の企画展 富山県美術館で開催

■ 富山県美術館

没後30年以上を経た今なお、デザインの領域にとどまらない高い評価を受け、影響を与え続けているデザイナー倉俣史朗氏(1934-1991)。名前を冠した展覧会としては約10年ぶりの開催となる企画展が、富山県美術館で開催されました。20代の頃の仕事を紹介する資料から、56才で突然世を去るまでにデザインした家具やインテリアを、「ミス・ブランチ」など同館が所蔵の椅子7脚も織り交ぜながら時代順に展示。残された日記やイメージスケッチなどを通じ「倉俣史朗その人」の実像にも迫りました。



「倉俣史朗のデザイン」展ポスター



38

倉俣史朗の企画展に合わせ 二人の作家が「クラマタ」を語る

■ 富山県総合デザインセンター

富山県美術館で開催された企画展「倉俣史朗のデザイン—記憶のなかの小宇宙」に合わせ、同美術館ホールにて「倉俣史朗 マテリアルの探求」と題する講習会が開かれました。クラマタデザイン事務所所属し、独立後も倉俣氏に間近で接していたインテリアデザイナーの近藤康夫氏に、その人物像とマテリアルに対する探究心についてお話をいただきました。また、近藤氏と親交のある富山ガラス工房名管館長であるガラス工芸作家の野田雄一氏を招き、倉俣氏が用いたガラス素材の魅力と可能性についてお話をいただきました。

ラグジュアリーなグランピングヴィラ 滑川にオープン

■ Namerikawa Granvilla Grappa

新興商事(魚津市)は12月、滑川市に全4棟のサウナ付グランピング施設「Namerikawa Granvilla Grappa(滑川グランヴィラ・グラッパ)」を開業しました。背後には立山連峰、正面には富山湾を見渡せる雄大な大自然の中で、1棟貸切のプライベートステイを楽しめます。1棟定員4~6人で、宿泊料金は素泊まりの場合1人2万4,800円~。1泊2食付きの場合、同3万3,800円~。



40 「交流」を重視した新社屋完成 産業観光にも対応

■ リッチェル

プラスチック製品メーカーの(株)リッチェル(富山市)の新社屋「本社R&Dセンター」が完成しました。約200人が勤務する社屋は、鉄骨4階建て、立山連峰を一望できる開放的なガラス張り。自由に席を選べるフリーアドレス制を採用し、社員が集うラウンジや、オンライン商談やウェブ会議のための1~2人用ブースも設置。産業観光にも対応できるよう、1階には会社の歴史をまとめたパネルや、自社製品を紹介する展示スペースも設けました。



42

セレクトショップ「雨晴」の2号店 京都の町家にオープン

■ オモビト

サニーライブグループ(高岡市)のオモビト(株)が運営するセレクトショップ「雨晴(あまはれ)」の第2号店となる「KYO AMAHARE」が、京都市にオープンしました。場所は京都の中心市街地に立地する3つの庭をもつ築110年の京町家。1階のショップでは、これまで東京白金の1号店で扱ってきたテーブルウェアや花器などを中心とする常設品のほか、茶道具や懐石の器も充実。2階の和室では、美術工芸作家と雨晴によるアートプロジェクト「雨跡/AMART」のラインナップもご覧いただけます。



43

44 おりん製造のシマタニ昇龍工房 ショールームを工房に併設

■ シマタニ昇龍工房

おりんをはじめとする仏具製造のシマタニ昇龍工房(高岡市)が、ショールームを開設しました。ショールームは工房に併設。自社ブランドの主力商品である錫製の器「すずがみ」や、直径9~15cmのおりんの展示販売を行っています。またショールーム開設と自社ブランド「syouryu」の10周年を記念したオープンファクトリーを開催。ワークショップやアウトレット商品の販売などを行いました。



黒部市の自然と一体となった 湯あそびテーマパーク誕生

■ 湯屋FUROBAKKA

「黒部市の自然と一体となった湯あそびテーマパーク」をコンセプトとした温浴施設「湯屋FUROBAKKA(ゆやふろばっか)」が、黒部市の「道の駅KOKOKUろへ」の隣接地に誕生しました。開発したのは高岡市で「陽だまりの湯」を運営する光陽興産(株)。「大浴場」「貸切風呂」「貸切サウナ」「キッチン」の4つのエリアで構成され、日本の名水百選にも選ばれている「黒部の名水」をふんだんに使用。パレルサウナなど7棟のサウナや手ぶらでBBQを楽しめるサービスもあります。

39



41

新社名をKALVAonに変更 12億円投じ入善に新工場建設

■ KALVAon

真空機器・福祉用具の製造、電子部品の検査のカナヤママシナリー(株)(黒部市)は、創業70周年を機に社名をKALVAon(カルバオン)に変更、新工場も建設。新社名は「カナヤマ」「アルミニウム」の頭文字と、VACUUM(真空)VARIUS(多様な)VALUE(価値)などの意味を込めた「VA」、英語の「on」を組み合わせたもの。新工場では産業機械の設計製作や真空機器の仕上げを担い、将来的には多様なものづくりで新分野への進出も視野に事業展開を図ります。



49

長沢宮農から 新たに商品が誕生

■ 長沢宮農

米と桃を栽培する(農)長沢宮農組合(富山市)から、新しく米と桃の加工品が誕生しました。土づくりにこだわった長沢宮農のコシヒカリがグルテンフリーでフワフワもちり食感の「米のドーナツ」になりました。また、樹上で完熟させ早朝に摘み取る、手塩にかけて育てた桃はトロリとした舌触りの桃飲料「Sora to Momo」になりました。長沢宮農の新しいブランドロゴと共に、親しみやすいデザインで誕生しました。

富山の自然をコンセプトとした サスティナブルオフィス竣工

■ 十全化学

医薬品・原薬の製造の十全化学(株)(富山市)の本社屋の建設が竣工しました。工業団地内に散らばっていた事務機能、会議室、食堂を集約し、「集中」「交流」の「切り替え」をコンセプトにオフィス全体をゾーニング。神通川や立山連峰への眺望を確保し、富山全域との連続性を感じられる設計としました。また隣接する公園とも連続させることで、社員だけでなく、近隣住民や訪問者も散策できる憩いの空間としています。



48



民芸運動の柳宗悦ゆかりの名刹に 宿泊と中心とした複合施設がオープン

■ 善徳寺 杜人舎

城端別院善徳寺(南砺市)の敷地内に、宿泊を中心とした複合施設「善徳寺 杜人舎(もりとしゃ)」がオープンしました。手がけたのは(一社)富山県西部観光社の関連会社、(株)水と匠(高岡市)。同寺は、民芸運動の創始者・柳宗悦氏が晩年に滞りし『美の法門』を執筆した場所。柳氏の愛弟子で富山の建築家・安川慶一氏(1902-79)が設計した寺内の研修道場を、富山出身の建築家・浜田晶則氏が改修設計しました。カフェ/ショップ、講堂、テレワークスペース、ホテル6室で構成され、河井寛次郎氏ら民芸作家の作品も展示されています。



45

46 新川地区初のワイナリー 魚津市にオープン

■ KANATA WINERY

新川地区では初となるワイナリー「KANATA WINERY」が10月にオープンしました。ワイナリーはLPガス事業などを行う(株)丸八(魚津市)が設立したもの。同社は2018年から同市天神山周辺でワイン用のブドウの苗木を植え始め、22年に自社醸造をスタートし初の魚津産ワインの完成にこぎつきました。ワインは日本食に合う繊細な味わいが特徴。ワイナリー内のショップと県内の酒販店9店で買うことができます。ワイナリーの営業は毎週金曜~日曜の午前10時~午後4時まで。



47

木工家ユニットShimoo Design ギャラリーで作品展示会を随時開催

■ Shimoo Design

Shimoo Designは下尾和彦氏・下尾さおり氏による木工家ユニット。「美しい日本の道具」をコンセプトに、日本の文化や美意識を現代のライフスタイルに落とし込む作品を製作しています。天然木材を主に用い、伝統技法である「浮造り」と独自の塗装法を駆使。家具やインテリア小物などの作品には、流行や時代を感じさせない「日本の美」が表現されています。Shimoo Galleryでは年間を通して作品展示会を開催(不定期)。Shimoo Designならではの情緒豊かな世界をご覧ください。



美のこわけ。

Sharing the daily life of Toyama, home to the abundance mindset and healthy body.

Giving you the unique and delicate Toyama moment.



from Toyama

富山の日常にあふれる美と癒しのコンテンツをあなたの日々にお届けしたい。そんな思いから生まれた「美のこわけ」は、こころもからだも豊かで健やかな富山の日常を「おすそわけ」するプロジェクトです。



instaglam

「美のこわけ」をかたちづくるもの

- 富山産の素材** 富山の水や空気や人の手で育てられた素材を原料にしていること
- 環境への配慮** 未利用素材の活用や、製造過程で自然と共生する工夫をしていること
- 伝統的な技術** 伝統的な産業を背景に、高い技術力で製造していること
- 地域の活性化** ものづくりを機に人が訪れる工夫など、地域の魅力を発信していること

- 【美のこわけ委員会】
- 名誉委員長 **新田 八朗** 富山県知事
 - 委員長 **桐山 登士樹** 県総合デザインセンター 所長
 - 委員 **大森 渚** (株)オージュ・コンサルティング代表取締役
梶川 貴子 (株)ウェルネス・アリーナ代表取締役社長
廣田 尚子 ヒロタデザインスタジオ代表
デザインディレクター
 - ロゴ・パッケージデザイン **清水 彩香** アートディレクター/グラフィックデザイナー

体験 作り手をめぐる体験そのものが「美のこわけ」

丁寧で真摯にもものづくりに向き合う「美のこわけ」の作り手の訪問など、富山の豊かさや健やかさの背景にある風土や文化を体感できるツアーや体験プログラムを提供しています。



水めぐる ー富山で生まれた美と癒しー

■期日/2023年8月10日(木)~10月15日(日) ■会場/D&DEPARTMENT TOYAMA GALLERY

富山の空を覆う分厚い雲は、豊富で清らかな水と、それに育まれた豊かな自然の源であり、そこで暮らす人々の健やかな肌を守る傘でもあります。高低差4000mという独特の地形を巡る水とそこで育った自然の素材に、歴史ある確かな製薬の技術を加えてつくられたケアアイテム「美のこわけ」。本展覧会では、身体や心が健やかになることを通じて、富山の歴史や自然の豊かさを伝えました。



第1弾 出会いのためのアソートシリーズ

富山の美と癒しに出会っていただくアソートシリーズ。スキンケアコスメを中心としたビューティーアイテムを素材や環境への配慮などの視点で見つめなおし、「ぬくもる」「うるおう」の2つのキーワードのもと、メーカーの垣根をこえてアソートしました。



第2弾 続けるためのオリジナルシリーズ

富山ならではの素材や作り手が持つ高い技術を組み合わせることで生まれるオリジナルアイテム。「美のこわけ」だからこそお届けできる美と癒しの日常を、さらに深く体感し、続けてご使用いただくためのシリーズです。



online shop



へちま水石けん
Loofah Lotion Soap

40年以上、農業を使わない畑で栽培しているへちまから採取したへちま水を、保湿成分として配合。原料として使用する水分をすべてへちま水に置き換え、オリーブ油などの植物油を主原料に馬油も加えることで潤いを残した洗いあがりを実現しました。コールドプロセス製法で作る石けんは、原料が持つ成分の多くをそのまま残すことができます。

品名：洗顔料・洗浄料 標準重量：100g

発売開始/2023年9月15日 販売価格/2,420円(税込)



トウキ葉美容オイル クロモジの香り
Angelica Leaves Extract Oil for Skin

トウキ葉のエキスはビタミンEを多く含み、肌を健やかに保ってくれます。香りには、富山の森から集めたクロモジの精油をブレンドし、さらりと伸びの良い「トウキ葉美容オイル」に仕上げました。天然由来の原料にこだわったシンプルな処方、敏感肌にもやさしい使い心地。肌本来の力にアプローチします。

品名：美容液 内容量：10ml

発売開始/2023年11月10日 販売価格/2,530円(税込)



クロモジ保湿バーム
Moisturizing Balm

クロモジ保湿バームはシアバターやホホバオイル、ミツロウなど保湿にすぐれた天然成分にクロモジの精油を配合。体温でやわらかくしながら乾燥の気になるところに馴染ませていくと、爽やかでほのかに甘い香りが立ちのほります。ハンドケアはもちろん毛先の保湿やナチュラルなスタイリングにもご使用ください。練り香水として気軽に香りを楽しむ使い方も。

品名：保湿クリーム 内容量：10ml

発売開始/2023年11月10日 販売価格/2,420円(税込)



アロマスプレー
富山の森の香り
Room Fragrance Spray

クロモジやタテヤマスギなど、富山の森をかたちづくる樹木の精油をブレンドしたアロマスプレー。森を歩くと次々に出会うのは、湿り気を帯びた木肌のおだやかな香り、針葉樹の葉が持つ爽やかな香り、小さな枝を踏んだ時のフレッシュな香り。リビングで、寝室で、居ながらにして富山の森に足を踏み入れたような感覚をお楽しみください。

品名：アロマスプレー 内容量：40ml

発売開始/2024年1月29日 販売価格/1,320円(税込)

ミラノサローネ 2023 デザイントレンド報告

■期日/2023年5月24日(水) ■会場/県総合デザインセンター クリエイティブサロン

今年度1回目の富山県商品開発研究会が、2023年5月24日にクリエイティブサロンで開催されました。今回のテーマは、世界最大規模の国際家具見本市「ミラノサローネ」のデザイントレンド報告。COVID-19の影響で、従来どおりの4月開催は4年ぶりとなったミラノサローネ。30数年間にわたり同サローネの視察・取材を続けてきた県総合デザインセンター所長・桐山登士樹による報告とトレンド分析が行われました。

2023年の概要

今年で61回を数えるミラノサローネ。私は1986年からサローネを訪れ、今年は36回目の視察となった。2005年からはLEXUSやCANON、AISIN、ランドセイコーなど日本企業や、伝統的工芸品(DENSAN)のサローネ出展やプランディングのお手伝いもしている。COVID-19の影響で2020年は中止、21年は規模を縮小し9月に、22年は6月開催だったので、通常開催は3年ぶりとなる。家具見本市に加え、隔年で照明とキッチンの見本市が開かれ、今年は照明の展示会(エウロルーチェ)が開かれた。

6日間の会期で181カ国から307,418人が来場(2022年比15%増)。バイヤーや業界関係者の来場者はイタリアに次ぎ中国、ドイツ、フランス、米国、スペイン、ブラジル、インドが同数で続いた。かつて日本は5~6位に付けていたが凋落。BRICs、グローバルサウスの躍進ぶりがうかがわれる。ジャーナリストの参加は5,400人。総出展社数は1,462社に上った。

ブランド&トレンド

巨大な会場の中で私が集中的に見学したのは、「ブランド」と呼ばれる著名な家具会社が出展するエリア(地図A)と、照明器具の「エウロルーチェ」および若手デザイナーが出展する「サテリテ」のエリア(地図B)だった。注目したブランドやトレンドを以下に述べる。

【家具】

①Kartell(カルテル) プラスチックだけではなく再生素材や新素材へ変革していく端境期にあるように思えた。新作に加えかつての銘品のカラーバリエーション展開も行ってた。

②edra(エドラ) 巨大で意匠性の高い家

具。ターゲットの超富裕層が求めるサイズ感、テイストがどのようなものであるかが分かる。

③Glass Italia(グラスイタリア) 1972年設立のガラス製家具メーカー。パトリシア・ウルキオラをはじめとする著名デザイナーを起用したもので作りで定評がある。富山にもガラス加工メーカーがあるのでこうしたデザイン経営に挑戦してほしいと思う。

④MAGIS(マジス) 1990年代に誕生した会社だが一気にブレイク。青山にもショールームがある。プラスチック主体の会社だったが、昨年から木製の作品を出展。時代による素材の変化を感じた。

⑤マルニ木工 深澤直人のアームチェアHIROSHIMAのメーカー。今回はジャスパー・モリソンの新作デスクチェアも展示。製品はアップル本社や広島G7でも採用され神話化されつつあるメーカー。

【照明】

照明部門(エウロルーチェ)には315社が出展。単にデザイン性だけでなく生活と照明との関係を考え、デジタル・省エネへの工夫がなされた作品が多かった。欧州ではフロアランプやデスクランプが主流だったが、大型のシーリングシェードランプが出展されているのがここ数年の特徴。

⑥FLOS(フロス) コンスタンティン・グルッチのLEDとロボット技術を用いた照明が斬新だった。

⑦Ambientec(アンビエンテック) ポータブル照明ブランドを展開する日本企業。デザイナー大城健作氏のアルミの押し出し材を使ったLED充電式の卓上ランプが目玉を引いた。

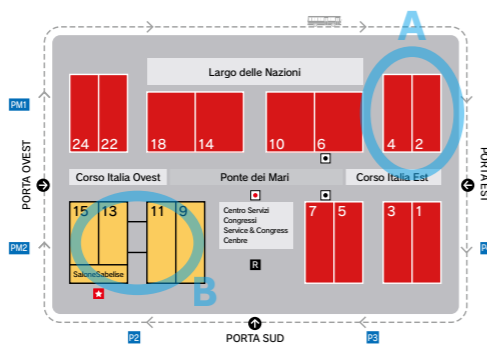
⑧DCW 照明器具というよりは室内アクセサリーを思わせる作品。光源のLED化によって熱の問題がクリアでき照度調整も自在。DC電源化もできデザインの可能性が広がっている。

【サテリテ】

35歳以下のデザイナーのエリア。AZUMIやnendo、TONERICOもここに出品し賞を受けている。若手デザイナーのインキュベーションの場でもある。富山デザインコンペティション2020でグランプリを受賞した「積彩」も出展。日本のデザインラボHONOKAによる家具シリーズ「TATAMI ReFAB PROJECT」がグランプリを獲得した。

ファッションブランドの参入

ファッションブランドの家具分野への進出も近年の特徴だ。家具業界とのコラボやインスタレーション展示などは、サローネの目玉的存在ともなっている。中でもLVMHグループの存在は大きい。LOUIS VUITTON、Dior、FENDI、LOEWE、Hermèsなどファッションブランドからワインや時計などのブランドも傘下に入っているが、家具会社が越えられない壁を打ち破ろうとしているように思えた。中でも印象に残ったのはHermès。「引き算の美学」による洗練されたデザインで家具、テーブルウェア、ブランケットなどを展開。皮革と日本の鋳造技術を組み合わせた収納容器もあった。世界の一流技術を広く集めて製作しており、富山・高岡も彼らの気になる存在になっていけばいいと思う。



最新の3Dスキャンを体験しよう

3Dスキャナ最新動向の解説・スキャンデモ/スキャン体験

■期日/2023年12月7日(木) ■会場/県総合デザインセンター バーチャルスタジオ

製造業向けのCAD/CAMの販売や開発サポートなどを提供する、(株)データ・デザイン テクニカルユニットの方をゲストとしてお迎えし、スキャン方式の違いによる特徴を中心に、近年複雑化するハンディ型スキャナの最新動向を解説。会場に自動車1台を配置し、大型3Dスキャンのデモンストレーションを行いました。また実機を操作しながら、参加者が持ち込んだ対象物を3Dスキャンする体験会も開催しました。

高まる3Dスキャナへの需要

(株)データ・デザイン(名古屋)は製造業向けのCAD/CAMの販売や開発サポートからスタート。近年は事業領域を拡大し、3Dスキャナや3Dプリンタ、関連ソフトウェアの販売・サポートを提供している。

3Dスキャナとは、現物を3次元のデジタルデータに変換する入力装置。3Dデータの活用として近年多くなっているのは現物から設計のデータを起こすリバースエンジニアリングの分野である。他にも品質検査などの測定・解析、文化財などのデジタルアーカイブ、CGやアニメのコンテンツ作成などにも活用されている。3Dスキャナの市場規模は2021年比で2026年には約14倍にも拡大すると予測されており、その背景には技術者の高齢化や商品のライフサイクルの短期化などがある。

測定器の変遷

測定器はノギスや巻き尺といったアナログツールからデジタルの接触式測定機に、そして非接触式の測定機へと進化してきた。3Dスキャナは「面」での計測ができ、複雑な凹凸もスキャン可能といった長所がある。ハンディタイプの3Dスキャナの場合、手軽にどこでもスキャンが可能で普及が進んでいる。

Artec3D社のスキャナ

本日はArtec3D社のハンディ型3Dスキャナをご紹介します。同社のハンディタイプのスキャナは対象物の大きさに応じて3種類がラインナップされており、ワイヤレスで稼働するものもある。いずれも特長は高速・高解像度でスキャンでき、位置を認識させるマーカーが不要であること。また色情報もスキャンできる。

ハンディタイプ以外にも卓上型の小さな

オブジェクトを対象とするものから、建造物の内部空間全体を対象とするものまでラインナップされており、これらによって得られたデータは専用ソフトで組み合わせることで合成することが可能である。

ソフトウェア

スキャナのデータを活用するには、用途に合わせた専用ソフトが必要となる。Geomagic Design Xは、スキャンデータを汎用的な3DCADのフォーマットに変換・出力することができ、リバースエンジニアリングなどに多く活用されている。Geomagic Control Xは、3DCADデータとスキャンデータの比較ができ検査工程の自動化で用いられている。スキャンデータの修正や自由曲面のモデリング用途にはGeomagic Freeformがある。また医療用途でCTやMRIのデータを3Dプリント可能な3Dモデルに変換できるDicom to Printといったソフトもある。

導入事例

Artec3Dスキャナは、製造業、建設業、医療、アパレル、エンタメなど様々な業界に導入されている。食品業界では、例えばチョコレート型の形状変更をする場合、元となる3DCADデータがなくても現物からデータをスキャンしGeomagic Design Xで体積値を計算しながら新しい型を設計製作している。部品メーカーでは、完全な現物がなくても一部欠損している複数の現物をスキャンし、それらの必要部分を合成することで求める形状をCAD内で作成。それを3Dプリンタで成型した事例もある。またインペラといった複雑な局面を持つ製品の形状検査においては、3DCADデータと現物のスキャンデータをGeomagic Control Xで比較し偏差を視覚的に表示することで

正否判定に役立てている。他にも文化財のデータ化や縮尺モデルづくり、VR/AR技術とスキャンデータを連動させ家具の配置や設備機械のレイアウト検討に活用している事例もある。

実地デモンストレーションとスキャン体験

以上の説明に引き続き、会場に搬入された自動車を使つての実地デモンストレーションが行われた。スキャンはあたくもビデオカメラで撮影する要領で行われた。スキャンされたデータは付属のソフトArtec Studioに読み込み合成、点群データをメッシュデータに変換処理する実演を行った。その後、参加者が持ち込んだ様々なオブジェクトをスキャンしデータ化する体験会が行われた。



GUEST SPEAKER

森 祐介、岩崎 雪乃、岡部 敬吾
(株)データ・デザイン テクニカルユニット

(株)データ・デザイン:1989年に会社設立。ソフトウェア開発サービスを始める。以降、1993年に3次元CADシステム、1994年に3次元自動CAMの販売を開始するなど業務を拡大。今日では、自動車、航空機、医療、機械などの業界を対象に、3Dスキャン/モデリング/マシニング/プリンティング/ビジュアルライズなどのソリューションおよびCAD/CAMシステムをはじめとする製品を提供している。近年ではAI/RPA技術、AR/MR技術を活用したデジタルソリューションの提案を行っている。本社・名古屋。横浜、インド、ベトナムに事業拠点・関連会社を展開。



愛される会社をデザインする

■期日 2023年7月20日(木) ■会場 県総合デザインセンター バーチャルスタジオ

近年様々なメディアで広く使われるようになってきた「デザイン経営」という言葉。「VUCAの時代」と言われる今日、我々は「愛される会社」をどのようにデザインしていけばいいのか。そのためのアプローチと背景にあるデザイン思考について石川俊祐氏に語っていただきました。その後、地元企業2社からそれぞれデザイン経営についての報告が行われ、講師を交えてパネルディスカッションが行われました。



GUEST SPEAKER

石川 俊祐

(株)KESIKI代表取締役CDO/(株)ウッドユウライクカンパニー代表取締役
多摩美術大学TCL特任教授/旭川市最高デザイン責任者(CDP)

日本を代表する「デザイン思考」実践者。企業のブランディング、組織デザイン、教育プログラムの開発から新規事業創出まで、数々のイノベーションプロジェクトを主導する。1977年、茨城県生まれ。ロンドン芸術大学Central St. Martins卒業後、Panasonic Design Companyでプロダクトデザイナーとしてキャリアをスタート。英PDD Innovations UKのCreative Leadを経て、IDEO Tokyoの立ち上げに従事。2018年よりBCG Digital VenturesにてHead of Designとしてデザイン組織の立ち上げ、大企業社内ベンチャー立ち上げに注力。2019年KESIKI Inc設立。現在、旭川市の最高デザイン責任者、事業承継をしたウッドユウライクカンパニー-WYLC代表取締役、多摩美術大学クリエイティブリーダーシッププログラム特任教授・プログラムディレクター、NTT com design studio KOELクリエイティブアドバイザー、慶応義塾大学connect、LIFESCAPESなど、大企業からスタートアップなど複数社のアドバイザーに従事。D&ADやGOOD DESIGN AWARD、山形エクセレントデザイン、いばらきデザインセレクションの審査委員を歴任するほか、数々のセミナー、カンファレンスにてキーノートや講師を務める。Forbes JAPAN世界で影響力のあるデザイナー39名に選出。著書に「HELLO, DESIGN 日本人とデザイン」などがある。

企業プレゼンテーション

梶川 貴子 (株)フジタ 代表取締役

宮田 隆司 YKK(株) 営業本部商品戦略部商品企画推進室室長

ディスカッション

モデレーター 岡 雄一郎 県総合デザインセンター デザインディレクター

パネリスト 石川 俊祐/梶川 貴子/宮田 隆司

企業プレゼンテーションやディスカッションの内容も入った報告書は、下記からご覧いただけます。



日本のデザイン力を解放したい

私はイギリスでデザインの教育を受けプロダクトデザイナーとしてキャリアをスタートした。その後はコンサルティングファームで、デザインをビジネスや戦略といった上流の流れに融合させる活動を行ってきた。現在は旭川市のデザイン責任者として、50年先を見つめた街づくりに関わっている。また無垢の木を使った家具の会社を事業承継し経営している。他にも社会人向けのデザイン教育にも携わっている。

デザインはモノの色や形といった表層的な領域にとどまらない。デザインのプロセスを通じて我々は、他者に共感しながら課題を解決し新しい価値を創造する。それは日本の社会に昔から備わっている「思いやり」とか「もてなし」に共通するものだ。その創造的な力を解放することが必要だと考えている。

「愛される会社」をデザインする会社

現在KESIKIという会社を運営している。この会社は、これまでプロダクト/サービスを作り事業を伸ばす、株価を上げる、クライアントに喜んでもらう…そんな仕事をしてきた人間が集まり、それらへの内観と熟考から、人や地球や社会に基点を置いた「愛される会社」をデザインするための会社としてスタートした。社員一人ひとりの気持ちをどうデザインするか。創造性をどう発動させるかをテーマにしている。

経済を回すという考えから「顧客に愛される」ことは大事な価値観だった。しかし

まずは「社員」に愛されることで社員の熱狂や創造性を発動させ、その結果おのずと「顧客」に愛されるサービスやプロダクトを生み出すことができ、「地球」にも愛される会社を作ることができる。これが「愛される会社」すなわちデザイン経営の中心にある考え方。KESIKIではデザイン経営に「ありがたい姿のデザインBEING」と「生み出すモノやコトのデザインDOING」という2つの手法でアプローチしている。

デザイン経営とは何か？

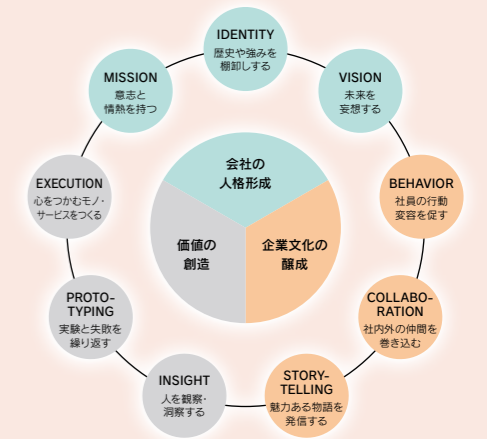
デザイン経営とは、「企業の存在意義と社員の意思・情熱の交差点(PURPOSE)を見定めることから、ユニークな組織文化を再構築し、社員や関係者一人ひとりの心に灯をともし、イノベティブな価値創造を起こし続ける経営手法」とまとめることができる。デザイン経営の根幹にあるのは、社員という「人」、ユーザーという「人」、これら人間を観察し生活に寄り添いながら、企業ブランドの構築や商品・サービスの設計を行うことだ。デザイン経営の考え方については、KESIKIが特許庁とともに制作したハンドブック『みんなのデザイン経営』を参照してほしい。



デザイン経営9つの入り口

ではデザイン経営を自社に取り入れていくためにはどうすればいいか。そのための入り口を紹介したい。我々は「会社の人格形成」「企業文化の醸成」「価値の創造」という3つのフレームとそれぞれに3つずつ、合計9つの入り口を設定した。どの入り口からアプローチしてもデザイン経営を実践することができる、というものだ。

パンフレットでは9つの入り口を基準に自社の課題を掘り下げ、デザイン経営を実践し成果を上げている企業の事例も紹介しているので、ぜひご一読いただきたい。



デザイン経営の成功・失敗の特徴

デザイン経営を実践している企業は中小企業から大企業まで幅広くその数も増えている。そこで成果を出している企業には次の3つの特徴がある。①PURPOSE: 社長から従業員まで危機感や違和感、目的を共有できている。②PROTOTYPE: 実際に行動し実験を繰り返し学べている。③OWNERSHIP: 社員ひとり一人が「自分の会社」との思いを持ち課題に取り組んでいる。

今なぜデザインアプローチなのか

デザイン経営の背景にあるのがデザイン思考というアプローチだ。デザイン思考のスタート地点は「人間中心」「使い手中心」という考え方。使い手に深く共感し、探求力と創造力を開放するアプローチと言える。そこでは使い手に密着し共感する蟻の目と、世の中全体を俯瞰する鳥の目が必要だ。複雑で不確実、これまでの積み上げ型の線形志向が通用しないVUCAの時代こそデザイン思考が求められる。

デザイン経営のアプローチ

「愛される会社」に不可欠な創造性溢れる企業文化を育む経営手法



Designers Meetup

～デザイナーとの出会いから商品化まで～

■期日 2023年11月24日(金) ■会場 高岡まちなかスタートアップ支援施設 TASU

富山デザインコンペティションをきっかけに実現した、富山県の企業とデザイナーとの出会い。今回はともに商品を開発してきたデザイナーと県内企業2社をゲストにトークセッションを開催。その出会いから商品ができるまでのお話を伺いました。またトークセッション終了後は、富山デザインコンペティション2023のファイナリストも参加して交流会が行われました。

プロジェクト紹介

LUFU ルフ

進藤篤 × へちま産業

「LUFU(ルフ)」は、へちまを素材に用いたインテリアアイテムブランド。LUFU誕生の発端となったのは、「編みなおす」をテーマに行われた2019年度富山デザインコンペティションで進藤が提案した「HECHIMA COLLECTION」だった。進藤は、立山連峰の良質な水源を活用し営まれている富山県の農業に着目し、古くから暮らしの道具として親しまれてきたへちまという素材の新たな付加価値をインテリアプロダクトとして提案した。HECHIMA COLLECTIONは255点の応募作品の中からファイナリスト作品10点のひとつとして選定された。(有)へちま産業とはコンペに向けた作品づくりからコラボ。コンペ終了後、LUFUブランド立ち上げのプロジェクトがスタートした。

同ブランドは、へちまが持つ無垢な心地よさと軽やかさ、



触れた瞬間に感じる懐かしさをコンセプトとするアイテムを展開。スタンド型のオブジェ「YULA(ゆら)」は、へちまの速乾性と通気性を活かし、水に浸し風に当てると気化熱による涼を得られたり、アロマスプレーを吹き付けることでフレグランススタンドとしても使用できる。ほかにも吊り下げるオブジェ「HALA(はら)」、六角形のラグマット「SALA(さら)」の展開が予定されている。

U, ユウ

進藤篤 × 佐野政製作所

(有)佐野政製作所と進藤篤によるプロダクトブランド「U, (ユウ)」のコンセプトは「無用の用」。「ほんのささいな瞬間が日常を豊かにしてくれる」、そんなプロダクトづくりを目指して2022年12月に立ち上がった。その第一弾となるアイテムが、高度な仏具製造の技術を駆使して製作された「ロリポップ」を収納するキャンディーケース「candy」だ。

進藤と佐野政製作所はブランドの構想段階から何度もミーティングを重ねコンセプトを練り上げていった。そのベースとなったのは佐野秀充氏の「作りたいもの」への欲求だった。佐野氏とのミーティングの中から進藤は「コミュニケーション」「しゃれた大人」「ラグジュアリー」「パーティー」などのキーワードを抽出。タバコケースやミントタブレットケー



スなどのアイテムを発案した。そのアイデアをさらに発展させ、千利休やマルセル・デュシャンを思わせる「とんち」あるいは「小さな驚きと感動を起こす」アイテムへと結実させた。無くて済むが、ある瞬間に登場することでその場の空気や人との関係に変化とサプライズをもたらす、そんな「無用の用」のプロダクトが誕生した。高岡の精巧な加工技術で仕上げられた真鍮製のcandyはゴールド・シルバー・ブロンズ・ブラックの4色のカラーバリエーションで展開されている。



GUEST SPEAKER

進藤 篤
デザイナー

1991年生まれ。東京藝術大学大学院デザイン専攻課程修了。インテリアデザイナーとしてホテル・オフィス・商業空間等のデザインに携わる。個人プロジェクトとして空間・インテリアオブジェクト・アート作品等、多岐にわたる作品を発表している。



GUEST SPEAKER

佐野 秀充
(有)佐野政製作所

1976年、富山県高岡市に鋳造メーカーとして創業。工程の分業制が根強い高岡で、職人と職人を繋ぎ、ワンストップで製品を完成させるディレクター役として機能。現在は仏具で培った加工技術を活かしインテリア製品や雑貨などの商品や、企業向け特注品製造を手がける。



GUEST SPEAKER

瀧田 秀成
(有)へちま産業

富山県射水市で40年にわたり無農薬栽培で育てた「へちま」を材料にさまざまな製品を開発。代々受け継がれてきた種と、立山連峰の雪解け水が潤す畑で栽培。ローションなどの化粧品や食品、浴用品、日用雑貨、和装小物などに加工、販売している。

トークセッション

Q デザイナーとの出会いは？

瀧田 富山デザインコンペティションに進藤氏が参加された際、その試作品づくりからお手伝いしたことがきっかけです。当社は日用品しか作ってこなかったのですが、へちまのオブジェという提案をもらい、新しい可能性にワクワクしました。佐野 かねてから富山県総合デザインセンターに自社製品の開発について相談していました。そして、デザインコンペティションの審査会を見学したとき、進藤氏を知りました。作品や考え方に接し、私が求めていたタイプのデザイナーだと分かり、お付き合いが始まりました。

Q デザイナーと企業とのパートナーシップは上手かったか？

進藤 デザインを提案した時、両社とも「このデザインは気に入らない」という反応ではなく、製作者の立場から工法などをチェックし、私とともにブラッシュアップしていったのが心強かったです。

瀧田 デザインは基本的に進藤氏に任せていました。当社の製造設備や作り方を事前に見てもらい、極力自社の設備でやることをルールとしました。

佐野 打ち合わせの度にたくさんの資料を用意していただき、私の意見も毎回聞いてもらいながら、プロジェクトを進め

ることができたと思います。

進藤 佐野さんの場合は金属加工にまつわる様々なネットワークをお持ちだったので、加工が難しいデザインも提案しました。

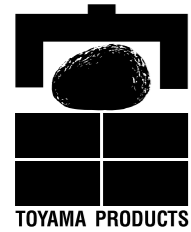
Q candyプロジェクトの進め方は？

佐野 最初は私の方から、極めて抽象的な方向性を投げかけてスタートしましたね。

進藤 確か、雑誌『レオン』に取り上げられるようなパーティーグッズといった内容でした。ちょっと「クスツ」とさせるような…といったオーダーでした。アート性の高いアプローチをしたいと思い、何度も壁に突き当たりながら形にしていきました。

Q 商品開発の費用については？

瀧田 進藤さんの計らいで、元々へちま産業にあった機械を最大限に活用する方向で商品開発が進められました。打ち合わせのための交通宿泊費や試作品の製作などは、富山県総合デザインセンターからご紹介いただいた国や県の様々な助成金を活用。また新商品の展示会にも助成金を利用しました。商品開発を考えているなら、デザイナーの紹介や契約、プロジェクトの進め方など、デザインセンターに相談してみることをお勧めしたいと思います。



優れた富山ブランドとして 今年度15点を選定

富山県総合デザインセンターでは、富山県内で企画または製造されている性能、品質及びデザイン性に優れた工業製品を「富山プロダクツ」として認定する富山プロダクツ選定事業を毎年開催。富山ブランドとして国内外に情報発信し、企業の販路開拓を支援しています。選定商品を生産・販売する企業には、商品の紹介パンフレット作成や、各種展示会への出品について県が支援を行うほか、共通シンボルマークの使用が認められます。

【スケジュール】

- 5月～8月 集中募集期間
- 9月5日 選定委員会の開催
- 10月 富山プロダクツ選定証交付
富山プロダクツ2023
PRリーフレット発行
- 10月19日～
12月10日 富山プロダクツ2023ニュープロダクツ展
(D&DEPARTMENT TOYAMA)

選定商品はWEBサイトに
公開しています。



富山プロダクツ
products.toyamadesign.jp



【選定委員】

- 委員長 桐山 登士樹 県総合デザインセンター 所長
- 委員 内田 和美 富山大学芸術文化学部 教授
進藤 仁美 ティアンドパートメント(株) D&DEPARTMENT事業部 富山店 店長
加藤 健 (公財)富山県新世紀産業機構 中小企業支援センター 次長
日野 利 高岡市デザイン・工芸センター 所長
茂木 新之助 (株)大和 マーケティング部 部長
岡 雄一郎 県総合デザインセンター デザインディレクター

令和5年度 富山プロダクツ選定商品

表記数字は、選定番号です。

トレイ
ヘキサレザートレイ
HLT01_M、HLT01_L
colmdesign



多面体が美しくインテリア性が高い
レザートレイ。

カーポート
FⅡ (エフツー)
三協立山(株) 三協アルミ社



フラットなアルミ屋根材と梁の一体化により、
梁部材の露出を抑制、住宅外観との調和を高
めた業界初の新構造。

熱回収換気機能付き高断熱窓
新DI窓
三協立山(株) 三協アルミ社



室温に近い快適な換気と高断熱・省エネ
ギーを実現する窓改修システム。

手すり
FINEMASTER
HB、CB
三協立山(株) 三協アルミ社



業界トップクラスの耐風圧性能5,000N/m²。
BL認定品。

食器
9° (クド)
U90、U150
シロウマサイエンス(株)



調理、食事、保存の3つの機能を持つ器。
特に、電子レンジ調理が得意。

靴下
PESCALLY (ペスカリー)
助野(株)



過酷な環境で働く漁師も認めるソックスを富
山湾しろえび倶楽部と開発。ムレ・汗冷え・ズ
レ・足の負担の解決に向けて素材や編み方、
設計を考え抜いた靴下。

蝶ネクタイ
nodo metal tie
NU21P-01BK
NU21P-01AL
(株)タカタレムノス



金属加工によって生み出される質感表現を
追求した蝶ネクタイ。リボンは軽量で錆びに
く形状の自由度が高いアルミ鋳造の特性が
活かされたデザイン。ベルトは国内でシルク
糸の選定から縫製までを行う。

インテリアオブジェ
giga project
(有)中村製作所



「絵になる鋳物」をコンセプトにした鋳物ブラ
ンド。どんな部屋や場所にも飾っておける
ようなサイズ感で、絵画から飛び出してきた
ような精密な造形や、時間とともに生活空間
に溶けこんでいく金属の風情を楽しめる。

神棚
鑄造神棚「雲の間」
M-KD00101～M-KD00103
(有)中村製作所



神棚を設置するスペースを確保するのが難し
い方でも気軽にお札を祀ることができる。蠟
型鑄造の技術を活かした繊細な造形は、現代
のインテリアにも合うデザインで洋室にも馴染
む。

アロマディフューザー
Taroma
アロマディフューザー
前田薬品工業(株)



薬都富山でかつて製造されていた青い薬瓶
からインスピレーションを受けて生まれたア
ロマディフューザー。ティフューザーから拡
がる香りは、その空間と時間を整え、癒しの稜
線を描く。

供養品
音心具(おんしんぐ)
(株)山口久乗



おりんなどの「音具」と、骨壺(かたみいれ)な
どの「心具」を組み合わせることで、「祈る・願
う・感謝する」ための、小さくとも心豊かな特
別な場所を持つことができる。

おりん
どんぐりん
UMK2011GD
UMK2011SL
UMK2105PK
(有)四津川製作所



どんぐりの形をした小さく可愛いおりん。蓋
に内蔵された振り子で鳴らす斬新な機構と、
小さくともゆらぎのある澄んだ音色が特徴。

おりん
揺音(ゆりね)
UYE2014GD
UYE2014SL
(有)四津川製作所



接地面が丸くデザインされた揺れるおりん。
鳴らすことで本体がゆらゆらと揺れ、音色も
心地よく揺らぐ。聴覚に加え視覚からも癒す
ことをテーマにしたおりん。

冷水筒
ダブルウォール
カラフェ 1L
(株)リッチェル



ダブルウォールの冷水筒。結露しにくく、液
体がぬるくなりにくい。また、大きな開口部
で洗いやすすぎ、パッキンレスでお手入れがし
やすい。

ベビーチェア
ベビーチェア ポージー70
(株)リッチェル



行儀の良い姿勢で食事に集中できる、座面
シート、ステップ、背もたれで姿勢をサポート
するベビーチェア。



■期日/2023年9月28日(木) ■会場/富山市ガラス美術館 Cafe小馬キラリ店

気候風土、文化、そこで暮らす人の生活など多様な要素と切り離せない関係にある建築。富山と東京に拠点を設けて仕事を進める本瀬齋田建築設計事務所 サモアーキのお二人に、ダイナミックな変化を続ける東京に対し、地方の建築に見出した可能性や新しい課題についてお話をいただきました。

とやまで建築を仕事にする

富山に移住

サモアーキは富山市中央通りに設計事務所を構えている。齋田は富山市ガラス美術館のプロジェクトに隈研吾事務所のスタッフとして2013年から関わった。工事監理で2年半富山にずっと携わり、その後は東京に帰る予定を変更しこちらに移住して設計活動を行うようになった。そこに隈事務所での同僚だった本瀬が合流し、サモアーキを立ち上げることになった。今日は自分が携わった建物で話す機会を得ることができ感慨深い思いだ。

キーワードとしての「風景」

サモアーキでは「風景」をキーワードとし

てよく使う。風景という言葉の中には天候、自然環境、街並み、歴史、生活など様々な要素が含まれている。それらを活かし、あるいは取り入れながらデザイン活動を行っている。今日は富山の「自然の風景」「街の風景」「暮らしの風景」という三つの切り口で私たちが手がけてきたプロジェクトを紹介したい。

富山の「自然の風景」

木製ジャングルジム

立山の魅力のひとつは、独立峰ではなく連峰であること。そんな山々の連なりを形にしたいと、木製のジャングルジム「サンカクジム」をデザインした。この作品は富山市中心街のグランドプラザに展示された。



サンカクジム

デザインのもう一つのモチーフとなったのは雪吊りである。このジャングルジムは金物で簡単に組み立て分解でき、富山駅前広場や大手モールのポケットパークでも展示された。

(株)リッチェル ショールーム

川の水を制御する頭首工(とうしゅこう)といった施設もまた富山を代表する風景



リッチェル/ショールーム

だ。川は急流で上流の谷は深く、流れは立体的である。この風景にインスパイアされたのが(株)リッチェル本社のショールーム。曲線を使い、川の流れのように人が巡る、そのような動きを誘発する空間デザインとなっている。見る人が回遊することで多様な分野の商品と出会ってほしいという思いを込めた。

オーベルジュ [L'évo レヴオ]

急峻な山間に階段状に広がる集落も富山ならではのもの。そんな地域の中にオーベルジュの建物を設計する機会を得た。消滅した集落の跡地、川に突き出した半島のような棚田状の敷地だった。豪雪地帯なので客席は2階に設け、谷筋を見下ろす眺望を大切に。かつての棚田状の石垣を活かし建物を配置。「敷地の変更は水の流れを変え災害につながる」との元住民の教えに従い、造成は最小限の盛土にとどめた。豪雪地帯のため、「雪割」と呼ばれる当地特有の屋根形状を採用。アプローチには「雪囲い」を設けるほか、パーティションにはもとあった集落の建物の窓を再利用した。また上水道が敷設されていないため、かつての暮らしと同様に沢水を利用。貯水槽を設置し、水の問題を解決した。自然の風景もさることながら、かつての自然と共にあった街の風景も掘り起こし新しい施設としてデザインしていくプロジェクトとなった。



オーベルジュ[L'évo]

富山の「街の風景」

フォトキト

富山の魅力を写真で発見・発信するフォトフェスティバル「フォトキト」の空間デザインを担当した。ホームセンターで買える程度の材料や工具で、簡単に作れる什器を設計。「撮れたての写真をすくいあげる」というコンセプトに沿って、漁網も取り入れたデザインとした。



フォトキト

納骨ロッカー

魚津市の慈興院大徳寺の納骨ロッカーは、コミュニティの中のお寺の風景を再考するプロジェクトとなった。「日常の風景に寺社を近づけたい」というオーダーに応え、木製の素材で温かみのある納骨ロッカーをデザインした。



納骨ロッカー

富山の「暮らしの風景」

実家と庭を共有する家

東京から見た富山の魅力は広々とした風景にある。自然が身近に感じられ、広々とした宅地も富山の魅力となっている。庭と一体となった住宅をデザインしたが、この住宅は実家の敷地の隣に新居を建てるというプロジェクトだった。親世帯の敷地と合わせた大きな敷地に2つの家と1つの庭を配置することで、広い庭を共有しつつ独立性を保てるようにした。この発想は、街中の商店街などで歯抜け状態となった土地を複数の住宅が庭として共有することでより豊かな住宅地として再生していく方法として活用できるかもしれない。

街を散歩しながら富山の風景からいつも新鮮なインスピレーションを得ている。私たち建築家のアイデアで活用できる資源が富山には溢れている。あなたの好きな富山の風景があれば教えてほしい。一緒にこれからの風景をデザインしていきたいと思う。



実家と庭を共有する家

GUEST SPEAKER

本瀬齋田建築設計事務所 サモアーキ



本瀬 あゆみ

本瀬齋田建築設計事務所主宰。金沢工業大学、東京電機大学非常勤講師。2003年東京藝術大学美術学科建築科卒業後、東京工業大学大学院修士課程修了。隈研吾建築都市設計事務所勤務、東京藝術大学美術学部建築科助手などを経て、2015年より本瀬齋田建築設計事務所を主宰。



齋田 武亨

本瀬齋田建築設計事務所主宰。富山クリエイティブ専門学校非常勤講師。2005年東海大学大学院工学研究科建築学専攻修了。隈研吾建築都市設計事務所勤務、同事務所・設計室長。隈研吾事務所にて、富山市のTOYAMAキラリの設計監理を担当し、2015年に独立。富山県で設計活動を行う。

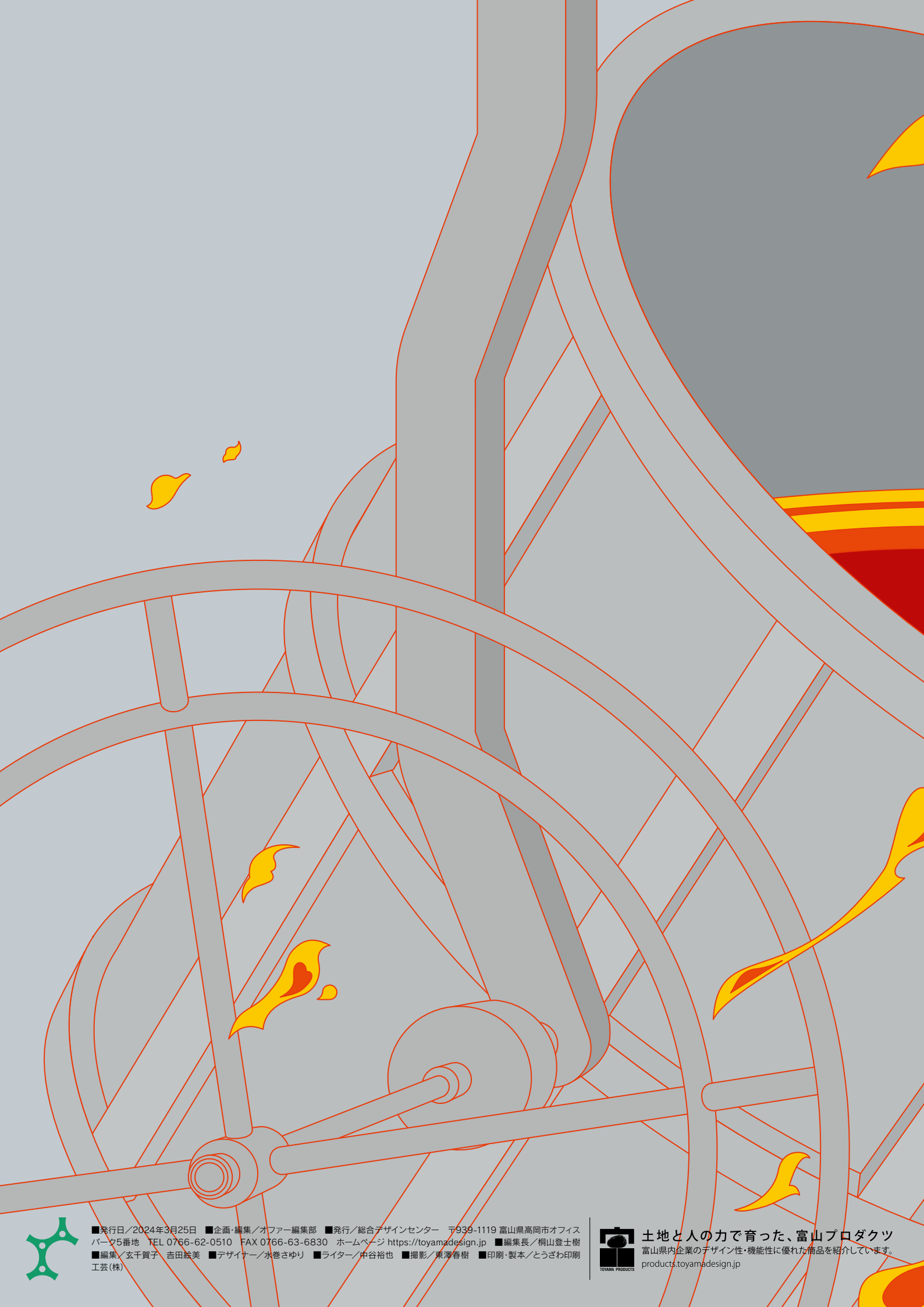
名称・日時	内容	備考【場所】
1 デザイン開発支援事業	富山県商品開発研究会 2023/5/24 イタリア「ミラノサローネ2023」視察報告	講師: 桐山 登土樹(県総合デザインセンター 所長) 【県総合デザインセンター パーチャルスタジオ】
	2023/6/27 リッチェル 本社R&Dセンター 企業視察	【(株)リッチェル】
	2023/7/20 デザイン講習会「愛される会社をデザインする」	【県総合デザインセンター パーチャルスタジオ】
	2023/9/28 第173回ナイトフォーラム「とやまで建築を仕事にする」	【富山市ガラス美術館 Cafe小馬キラリ店】
	2023/9/11 富山デザインコンペティション2023 1次審査(内覧会)	【県総合デザインセンター パーチャルスタジオ】
	2023/11/1 富山デザインコンペティション2023 最終審査会・授賞式・意見交換会	【ホテルニューオータニ高岡】
	2023/11/24 デザイナーと企業の交流イベント「デザイナーズ ミートアップ」	【高岡まちなかスタートアップ支援施設 TASU】
	2023/12/7 ITセミナー「最新の3Dスキャンを体験しよう」	【県総合デザインセンター パーチャルスタジオ】
	2024/2/15 とやまデザイン・トライアル2023 成果発表会	【SHIBUYA QWS CROSS PARK(東京都渋谷区)、 県総合デザインセンター クリエイティブサロン】
	2024/3/7 デザイン講習会「倉俣史朗 マテリアルの探求」	【県美術館 ホール】
新川・富山相談窓口の開設 企業の商品開発や、PR、各種情報にいたるまで、幅広くサポート。「商品開発についてアドバイスしてほしい」「企業の魅力や商品を効果的にPRしたい」「商品開発の補助事業を知りたい」といった様々な要望をもつ県内企業、個人事業者の方を対象に個別相談に応じるデザイン相談会を開催。 〈新川地区〉相談日時: 毎月第1金曜日 13:30~16:30 【県魚津総合庁舎 405会議室】 〈富山地区〉相談日時: 毎月第2・4金曜日 13:30~16:30 【県民会館 604会議室】		
デザインプロジェクト推進事業 2023/4~2024/3 富山県内のデザイン開発支援策として、企業にデザイナーを派遣し、デザインを軸に魅力ある商品開発プロジェクトを発起させ、県内のデザイン開発を推進する。 ①支援企業: (株)クリエイティブ デザイナー: 宮田 茂弥(合同会社ooooo) ②支援企業: 「美のこわけ」トントンPOPUP出展企業 ③支援企業: (株)波多蔵木工所 デザイナー: 原田 一穂 ④支援企業: (株)中村製作所 デザイナー: 久保田 光明 ⑤美のこわけ広告掲載 マルルート ⑥支援企業: とやまデザイン・トライアル協力企業		
ITセミナー 2023/12/7	「最新の3Dスキャンを体験しよう」	ゲスト: 森 祐介、岩崎 雪乃、岡部 敬吾 (株)データ・デザイン テクニカルユニット 【県総合デザインセンター パーチャルスタジオ】
2 デザイン交流事業	デザイン講習会 2023/7/20 「愛される会社をデザインする」	講師: 石川 俊祐(プログラムディレクター、(株)KESIKI 代表取締役CEO) 梶川 貴子(株)フジタ 代表取締役) 宮田 隆司(YKK(株)営業本部 商品戦略部 商品企画推進室 室長) モデレーター: 岡 雄一郎(県総合デザインセンター デザインディレクター) 【県総合デザインセンター パーチャルスタジオ】
	2024/3/7 「倉俣史朗 マテリアルの探求」	講師: 近藤 康夫(インテリアデザイナー) 野田 雄一(ガラス工芸作家) 【県美術館 ホール】
	ナイトフォーラム 2023/9/28 「とやまで建築を仕事にする」	講師: 本瀬 あゆみ、齋田 武亨(株)本瀬齋田建築設計事務所) 【富山市ガラス美術館 Cafe小馬キラリ店】



名称・日時	内容	備考【場所】	
3 情報発信事業	機関誌の発行 2023/3/25 offer vol.51 2023年度事業報告		
	デザイン雑誌情報 日経デザイン、AXIS、confort、ELLE DÉCOR、Casa BRUTUSなどのデザイン誌を整備し、デザインセンターライブラリーなどで閲覧するなどの情報提供を行う。		
4 PR強化事業	2023/4/1~2024/3/31	県総合デザインセンター及び高岡市デザイン・工芸センター、機能作が連携し、展示室のPR強化に向けた企画・工芸・展示室への誘客を図り、県内企業のデザインの取り組みに関する情報発信を強化し、産業観光の振興を図る。	
	2023/6/1	事業者ヒアリング	
5 とやまお土産新ブランド「美のこわけ」創出事業	企画委員会 2023/6/14 第10回企画委員会		
	2023/9/12 第11回企画委員会		委員: 大森 渚(株)オーजू・コンサルティング代表取締役) 梶川 貴子(株)ウェルネス・アリーナ 代表取締役社長) 廣田 尚子(ヒロタデザインスタジオ デザインディレクター) 【県総合デザインセンター クリエイティブ・サロン】
	展示会 2023/4/6~5/14 「とやま 美と健康フェア」		【金太郎温泉光風閣 ギフトショップ「北前船」】
	2023/6/6 東京富山県人会連合会「令和5年懇親のつどい」出展	【ホテルニューオータニ高岡 鶴の間(東京都千代田区)】	
	2023/9/6 「富山で休もうメディアミーティング」出展	【TKP ガーデンシティREMIUM京橋(東京都中央区)】	
	2023/8/10~10/15 「水めぐる -富山で生まれた美と癒し-」	【D&DEPARTMENT TOYAMA GALLERY】	
	2023/9/6~11 美のこわけ特設販売	【有磯海SA上り】	
	2023/9/6~11 「第23回 使ってみようMONOフェア」出展	【山形屋(鹿児島県鹿児島市)】	
	2023/10/5~11/30 「ぐつすり」とやまキャンペーン」美のこわけプレゼント	【WEB】	
	2023/10/13 「Age Well Japan 2023」出展	【二子玉川ライズガレリアスペース(東京都世田谷区)】	
2023/10/26~28 「T-Messe2023 富山県ものづくり総合見本市」出展	【富山産業展示館(テクノホール)】		
2023/11/4 「富山マラソン2023」出展	【富山市総合体育館】		
2023/11/7~19 「とやまの逸品フェア2023 in 日本橋とやま館」出展	【日本橋とやま館(東京都中央区)】		
2023/12/1 「第7回 まるごと富山フェア」出展	【東京富山会館(東京都文京区)】		
2023/12/1~31 「Wellness Folklore 土地の知恵から生まれた健やかな美しさ」出展	【d47 MUSEUM内特設会場(東京都渋谷区)】		
2024/1/29~2/12 「美のこわけフェア」	【日本橋とやま館(東京都中央区)】		
2024/2/8~ 「美のこわけ」のなかみ」	【トントン】		
2024/2/5 「つながる農工商連携! 共創マッチングフェア」出展	【とやま自遊館】		
2024/2/29~3/1 「富山のくすり2024」出展	【KITTE 東京シティアイ パフォーマンスゾーン(東京都千代田区)】		
販売支援 2023/4/1	県内の商業施設や観光・宿泊施設など17店舗、10市町村で販売	【弥陀ヶ原ホテル、有磯海SA上り、T.OCUL(イオンモール高岡)、黒部峡谷鉄道宇奈月売店、金太郎温泉、GOSHU(きときと市場とやマルシェ内)、D&DEPARTMENT TOYAMA、トントン、まいどは屋(富山きときと空港)、鳥越の宿 三楽園、北陸新幹線黒部宇奈月温泉駅売店「のわまーと」、MARX(マルルート)、the Made In(三井アウトレットパーク北陸小矢部)、道の駅雨晴、桜ヶ池クアガーデン、湯の里いけりも、リバーリトリート雅楽俱】	
インスタグラム 2023/5/1~	「美のこわけ」の公式インスタグラム(@binokowake) 運用		
ブランドブック発行 2024/3	美のこわけブランドブック発行		

名称・日時	内容	備考【場所】
6 クリエイティブ人材リカレント教育事業	大学連携型デザイン・ワークショップ 2023/6/5~12/ 愛知県立芸術大学×平和合金 「和をテーマとしたインテリアアイテムと平和合金の強みが活かせる企画」 	企業: ㈱平和合金 大学: 愛知県立芸術大学美術学部デザイン・工芸科 【㈱平和合金、愛知県立芸術大学】
	2023/6/16~8/4 富山大学芸術文化学部×藍染め屋aiya 「藍染め文化を伝えるライフスタイルプロダクトの開発」	事業者: 藍染め屋aiya 大学: 富山大学芸術文化学部 【藍染め屋aiya、富山大学、三井アウトレットパーク北陸小矢部】
	2023/7/25, 8/3~4 金沢美術工芸大学×ウイン・ティー 「アルミ材から削り出す金属造形」	企業: ㈱ウイン・ティー 大学: 金沢美術工芸大学工芸科金工コース 【金沢美術工芸大学】
課題解決型デザイン・インターンシップ 2023/8/28~9/1 とやまデザイン・トライアルインターンシップ2023		受入企業: 勝星産業㈱、㈱米三、三芝硝材㈱、㈱二上、㈱中嶋工芸社 参加者: 金沢美術工芸大学大学院(2名)、香川大学(2名)、静岡文化芸術大学(1名)、多摩美術大学(5名)、社会人(1名) 【県総合デザインセンター クリエイティブ・サロン、受入企業】
とやまデザイン・トライアル成果発表会 2024/2/15 3つのワークショップとインターンシップの事業成果を発表し共有する成果発表会		【SHIBUYA QWS CROSS PARK(東京都渋谷区)】
作品展示 2024/3/18~31 TOYAMA DESIGN TRIAL 2023展		【県産業高度化センター 展示室、オンライン】
報告書発行 2023/3/22 TOYAMA DESIGN TRIAL 2023 ANNUAL REPORT		
7 富山プロダクツ選定事業	募集 2023/5/29~8/31 県内で企画、製造される品質やデザイン性に優れた工業製品の認定制度「富山プロダクツ」の公募(集中募集)	
	選定委員会 2023/9/5 応募された13社21点の商品の中から10社15点を「富山プロダクツ」として選定 	委員長: 桐山 登士樹(県総合デザインセンター 所長) 選定委員: 内田 和美(富山大学芸術文化学部教授) 進藤 仁美(ティアンドパートメントD&DEPARTMENT事業部 富山店 店長) 加藤 健((公財)富山県新世紀産業機構 中小企業支援センター 次長) 日野 利(高岡市デザイン・工芸センター所長) 茂木 新之助(㈱大和 マーケティング部 部長) 岡 雄一郎(県総合デザインセンター デザインディレクター) 【県総合デザインセンター クリエイティブ・サロン】
	選定証交付 2023/10/1 富山県知事より選定証を交付	選定企業: colmdesign、三協立山㈱ 三協アルミ社、シロウマサイエンス㈱、助野㈱、㈱タカタレムノス、㈱中村製作所、前田薬品工業㈱、㈱山口久乗、㈱四津川製作所、㈱リッチェル
	展示会 2023/9/16~18 「おりん進化論 タカオカ ガラバゴスのデザイン展」	【専福寺】
	2023/10/14~15 「クラフトバレーフェア」出展	【サンフランシスコ ジャパンセンター内(アメリカ)】
	2023/10/19~12/10 「富山プロダクツ2023ニュープロダクツ展」	【D&DEPARTMENT TOYAMA GALLERY】
	2023/4~2024/3 富山プロダクツ常設展	【県産業高度化センター 展示室】 
リーフレット発行 2023/10 TOYAMA PRODUCTS 「土地と人の力で育った、富山プロダクツ」		

名称・日時	内容	備考【場所】
8 普及指導事業	富山デザインブランド販路開拓事業 デザインセミナー 2023/11/24 「デザイナーズ ミートアップ トークセッション」	講師: 進藤 篤(デザイナー・アーティスト) 佐野 秀充(㈱佐野政製作所) 瀧田 秀成(㈱へちま産業) 【高岡まちなかスタートアップ支援施設 TASU】
	デザインウェブ開催委員会 2023/5/25 2022年度報告と2023年度事業計画案の承認	【県民会館 701号室】
9 富山デザインウェブ2023	富山デザインコンペティション2023 2023/6/19~8/18 応募登録・作品シート提出 募集テーマ「デザインコンペ30回目の挑戦」	
	2023/9/11 1次審査 作品シートによる書類審査 ファイナリスト10点及び入選作品10点を選出	審査員: 安積 伸(デザイナー/法政大学教授/A Studio Design Ltd.代表) 塚本 カナエ(デザインディレクター/Kanaé design Labo代表) 岡 雄一郎(県総合デザインセンター デザインディレクター) 進行: 平野 尊治(県総合デザインセンター 主任研究員) 【県総合デザインセンター バーチャルスタジオ】
	2023/11/1 最終審査・授賞式・意見交換会 ファイナリストによる作品のプレゼンテーションが行われ、公開審査で各賞(4賞5点)を選出	【ホテルニューオータニ高岡】
	2023/11/2 富山モノづくり視察ツアー 最終審査に参加するファイナリストを対象として県内のものづくりやデザイン関連施設等に対する理解を深めることを目的に実施	【県総合デザインセンター、㈱能作、トトン、富山ガラス工房、県美術館】
	2023/11/24 デザイナーズ ミートアップ 富山デザインコンペティションをきっかけとした開発プロジェクト創出を目的に、ファイナリストと県内企業とのマッチング会を実施	【高岡まちなかスタートアップ支援施設 TASU】 
	展示会 2023/11/17~27 「富山デザインコンペティション30年の軌跡」	【御旅屋セリオ】 常設展 【県産業高度化センター 展示室】
関連イベント 2023/9/16~11/12 市場街2023 富山デザインフェア2023 工芸都市高岡2023クラフト展 第63回富山県デザイン展	【高岡市内各所、富山市中心市街地】	
報告書発行 2024/2/26 toyama design wave 2023		
商品流通支援活動 2023/12~ 県内企業と協力しながら、作品の商品化、プロジェクト化を推進		
10 その他	インターンシップ 2022/7/3~5 県立高岡工芸高等学校 デザイン・絵画課 生徒4名 受入	【㈱ウイン・ティー、㈱能作、県総合デザインセンター】
	農工商連携推進事業 2023/8/25 「つくる・つたえる」農工商連携!ミニセミナー・相談会 お客様のところに届く!伝わるデザインと商品写真の考え方	講師: 岡 雄一郎(県総合デザインセンター デザインディレクター) 【県民会館504号室、604号室】
	きらめきエンジニア事業 2023/10/25 「商品プロデュース」	【県立大門高等学校】
常設展示 2023/4~2024/3 富山プロダクツ選定商品、美のこわけ、富山デザインウェブ入賞作品等の常設展示(開館時間:9時~17時、休業日 祝日、年末年始)		【県産業高度化センター 展示室】
フロンティア研究推進事業 2023/7~2024/3 精密レーザー処理を活用した木材の曲面成型技術に関する研究		



■発行日/2024年3月25日 ■企画・編集/オファー編集部 ■発行/総合デザインセンター 〒936-1119 富山県高岡市オフィス
パーク5番地 TEL 0766-62-0510 FAX 0766-63-6830 ホームページ <https://toyamadesign.jp> ■編集長/桐山登士樹
■編集/玄千賀子 吉田絵美 ■デザイナー/水巻さゆり ■ライター/中谷裕也 ■撮影/東澤春樹 ■印刷・製本/とうざわ印刷
工業(株)



土地と人の力で育った、富山プロダクツ
富山県内企業のデザイン性・機能性に優れた商品を紹介しています。
products.toyamadesign.jp